

平成30年度 青少年問題を考える地域懇話会

当協会では市町村民会議の活動を支援するため、地域の青少年問題について、有識者と地域の育成指導者等が意見交換等を行う「青少年問題を考える地域懇話会」を開催しています。今年度は、江差町（9月）、根室市（11月）の2箇所、それぞれの青少年育成市町村民会議と共催し開催しました。

【江差町】テーマ「地域づくりに向けた担い手育成と社会教育の役割」

- 日 時 平成30年9月27日(木)
- 場 所 江差町文化会館
- 共 催 江差町青少年健全育成会議
- 後 援 江差町教育委員会
- 講 話・意見交流助言者

「地域づくりに向けた担い手育成と社会教育の役割」

北海学園大学大学院経済学研究科・経済学部地域経済学科 教授 内田 和浩 氏

- 意見交流コーディネーター 檜山教育局教育支援課社会教育指導班主査 安間 邦雄 氏

●概 要

内田先生は講話の中で、①人口減少社会をどう生きるかが課題であり、縮充社会へ向けた地域づくりが重要であること。②江差町に、若者がリターンし、多くの人が町に集まるためには、「住みたいと思うまちづくり」が大切であること。③江差はとても魅力的な町なので、その良さを伝えるために、「町の仕事の見える化」や「ふるさとキャリア教育」などの工夫をしてほしい。④大人自身が「地域の誇り」を取り戻し、地域に関わるすべての子どもや若者に「地域の良さ」を伝える社会教育をしてほしいとお話しました。

意見交流では、安間主査の進行により、参加者が4つのグループに分かれ、①講話の中で心に残ったこと、②今後一人一人ができそうなことを、「○すぐできること」、「△ちょっと時間をかければできること」、「□来年度以降時間をかければできること」に分けて付箋に書きました。書いたことをもとにグループ内で交流したり、他のグループの書いたものを見合ったりしました。

心に残ったこととして、「消滅都市にはなりたくない」、「町にある仕事の見える化」などがあげられました。また、今後できることでは、○すぐできることとして、「地域で仲良くする」、「挨拶をする」、△ちょっと時間をかければできることとして「SNSで求人情報を流す」、「地域の企業が教育に参加する」、□来年度以降時間をかければできることとして、「若年層に対する郷土教育」など、町づくりのアイデアがたくさん出されました。

内田先生からは、「今後できそうなことを、すぐできる、ちょっと時間をかければできる、来年以降できることに分け、誰と、どんな方法で実行するかを考え、行動する。この方法を皆さんの町づくりに生かしてほしい」という助言をいただきました。



【根室市】テーマ「子どもたちの今を見つめ、地域で支え合うために」

～子どもたちを健やかに育てるために、地域の大人は何をすべきか～

- 日 時 平成30年11月14日(水)
- 場 所 根室市総合文化会館
- 共 催 根室市青少年健全育成市民会議
- 後 援 根室市教育委員会
- 話題提供・助言者

「大人も子どもも み～んな笑顔になあれ」

～子どもたちを健やかに育てるために、地域の大人はどうかかわっていくのか～

心のサロンSmiley 代表 佐々木 祥子 氏

- 意見交流コーディネーター 根室教育局教育支援課社会教育指導班主査 吉光寺 勝己 氏

●概 要

佐々木先生による話題提供では、①不登校児のソーシャルサポートを通して登校できるようになった事例、②不登校児と親のケアでは、心のサロン「スマイリー」に通いながら、不登校児にはソーシャルサポートを、親には子供にスモールステップの目標設定と満足感や達成感を感じる言葉かけを学んでもらうなど、親子に対するコーチングを行った事例、③学級崩壊をしたクラスの立て直しの事例などを紹介しながら、カウンセリングやコーチングにおいては、3つの感情（同感、同情、共感）と4つの傾聴（共感的、能動的、反復的、具体的）を大切にしながら相手が話したいこと、伝えたいことを丁寧に聴くことや受容的・共感的な態度で聴くことが大切だとお話しされました。

意見交流では、吉光寺主査の進行により、アイスブレイク「もしもしかめよ」の手あそびで参加者の緊張をほぐした後、まず、話題提供で印象に残ったことTOP3をワークシートに記入する。次に、ネットワーク（連携）という視点から子どもたちの健やかな成長のために大人がどうかかわるか、現状を想起し解決策を考える。以上の二つについてグループで意見交流をしました。時間の関係で各グループごとの発表は省略されましたが、グループ内での熱心で有意義な意見交換がなされました。

佐々木先生からは、学級崩壊のクラスでは、みんなと同じ行動をしない子に「一人一人の価値観が違うから、わかってあげよう」なんて言葉は言わないこと。人は自分の物差しで物事を見てしまい、意見を言いがちだがそれはちがう。子供には言葉で伝えてもわからないので「ワーク」を体感してもらう。「ワーク」をすることで、人は価値観が一人一人違うことを認識させる。子供たちには体験活動もそうだが、体感することをたくさんしてもらい、感じてもらうことが大事だという助言がありました。

